

# 「2016 年度 名古屋大学機器・分析技術研究会」参加報告

化学・材料系技術班 岡野 聡

主 催：名古屋大学全学技術センター  
 期 間：平成 28 年 9 月 8 日（木）～9 月 9 日（金）  
 会 場：名古屋大学東山キャンパス豊田講堂

## 1. はじめに

本研究会は、文部科学省所轄の大学共同利用機関法人、国立大学法人および独立行政法人国立高等専門学校機構に所属する技術系職員が技術研究発表，討論を通じて技術の研鑽，向上を図りさらには相互の交流と協力により技術の伝承をもふまえ，わが国の学術振興における技術支援に寄与することを目的として毎年全国各地の大学等において開催されている。今回は，平成 28 年 9 月 8～9 日にかけて開催された「2016 年度 名古屋大学機器・分析技術研究会」に参加したので，その内容について報告する。

## 2. 報告

### 2.1 研究会全体の様子

会場周辺には多くの研究会の立て看板や旗があり，スタッフは全員お揃いのポロシャツを着ていたため，非常に運営がしっかりしているという印象を受けた(図-1 参照)。表-1 に，本研究会のプログラムを示す。参加者は約 350 名であり，12 件の口頭発表と 67 件のポスター発表が行われた。また，本研究会のテーマは「技術職員の国際化」と「装置の共有化」であったため，それに伴った 6 件の特別講演も設けられていた。その中には，ノーベル物理学賞受賞者の天野浩先生による講演もあった。会場は質疑応答が盛んに飛び交い，研究会全体が非常に盛り上がっていた印象であった。

### 2.2 口頭発表について

「技術職員の国際化」に関しての特別講演として 4 件の口頭発表があった。秋田大学の川原谷氏によるセルビアにおける鉱山廃棄物の無害化に関する話や，名古屋大学全学技術センターの高田氏による海外の技術職員との関わりについての発表があった。また，タイのチュラーロンコーン大学の Patchanita Thamyongkit

表-1 研究会プログラム

9月8日(木)		9月9日(金)	
8:30 ~ 9:00	受付	8:30 ~ 9:00	受付
9:00 ~ 9:10	開会宣言(機器・分析技術研究会実行委員長 高田 昇治)	9:00 ~ 10:20	口頭発表-1(発表者:4人)
9:10 ~ 10:30	特別企画 技術職員の国際化(発表者:4人)	10:20 ~ 10:40	休憩
10:30 ~ 10:50	休憩	10:40 ~ 12:00	口頭発表-2(発表者:4人)
10:50 ~ 11:35	ポスタープレ発表	12:00 ~ 13:30	休憩
11:35 ~ 12:00	記念写真撮影	13:30 ~ 14:50	口頭発表-3(発表者:4人)
12:00 ~ 13:20	休憩	14:50 ~ 15:05	閉会式
13:20 ~ 13:30	開催挨拶:全学技術センター長・理事 竹下 典行		
13:30 ~ 14:30	特別講演:「世界を照らすLED」 未来材料・システム研究所 附属未来エレクトロニクス集積研究センター長 天野 浩		
14:30 ~ 15:15	特別企画:「今後の設備・機器の共用化について」 文部科学省 科学技術・学術政策局 研究開発基盤課長補佐 田村嘉章		
15:15 ~ 15:30	休憩		
15:30 ~ 16:05	ポスタープレ発表		
16:05 ~ 16:15	今後の開催校紹介		
16:15 ~ 17:45	ポスター発表		
18:15 ~ 19:45	情報交換会		

氏の英語による講演があった。彼女の講演終了後、会場の技術職員から英語による質問が盛んに行なわれていたのには驚いた。国際化と聞くと敷居が高い気がするが、現状として研究室内の留学生の増加や海外研究者とのやり取り、さらには国際学会への参加など、研究者・技術者の国際化へのシフトはむしろ必然である。その空気感を肌で感じることができ、大変よい経験となった。

もう一つのテーマである「装置の共有化」については、文部科学省の田村嘉章氏より「今後の設備・機器の共有化について」の講演が行われた。我が国の一人当たりの分析装置にかかる費用は米国に比べて2倍程度と極めて高く、また国立大学への国からの補助金は年々減少の一途を辿っている。よって、研究室単位で装置を所有するのではなく、全国的なスケールで装置を共有化することで、専門スタッフによる管理、設備費・スペースの効率化、短期滞在者利便性の向上を目指す、という内容であった。既に設備の共用化に関しては文科省主導のナノテクノロジープラットフォームや、分子研主導の大学連携研究設備ネットワークなどが稼働しているとのことであった。

また、ノーベル賞受賞者の天野浩先生による「世界を照らすLED」の講演を聞くことができた。学生時代から続けてきた青色LEDの開発秘話からノーベル賞を受賞した時の様子まで、ざっくばらんに様々な話を聞くことができ、大変に貴重な体験となった。

### 2.3 ポスター発表について

ポスター発表は「SEM」「NMR」など分析機器ごとに分野が設けられており、それぞれ非常に細かく、マニアックな議論が繰り広げられていた。私も「共同利用分析装置の管理・運営体制について」というタイトルでポスター発表を行い、共同設備の運営体制を紹介するとともに、他機関の情報も得た。名古屋大学は全学技術センターを設置し、分析機器の専任スタッフを常駐させ、全国からの依頼測定に対応していた。一方他大学では、学科で購入した装置を全学に開放しているために、学科の技術職員が兼任で管理しているという現状であった。私が発表した内容は、「業務が多い中、いかにして機器管理を簡略化・遠隔化するか」という内容であったため、聴講者には大変好評であった。

## 3. まとめ

今回初めて当研究会に参加したが、機器分析に特化した研究会であることから、非常に興味深く、またマニアックな内容まで情報を得ることができ、大変に勉強になった。こういった学外での研究会に参加することで刺激を受けるとともに、自分の立ち位置を理解することができる。是非とも若手の技術職員の皆様にも、積極的に参加をしていただきたいと思う。

**謝辞：**本出張は、工学部等技術部の経費で参加させていただきました。この場をお借りして、厚く御礼申し上げます。



図-1 発表会場正面



図-2 講演会場の様子

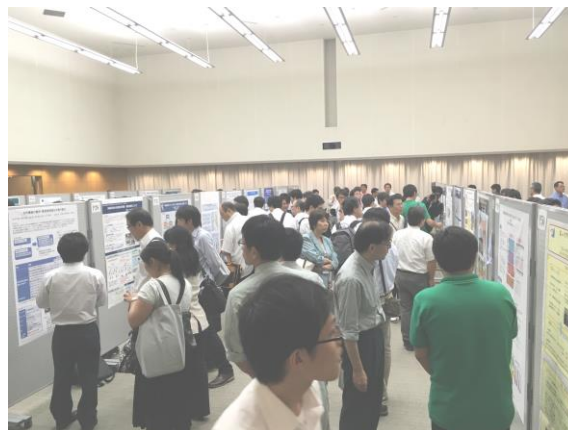


図-3 ポスターセッション会場